



Cisco Network Assistant スタートアップ ガイド

Version 5.4

**【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意
(www.cisco.com/jp/go/safety_warning/)をご確認ください。**

**本書は、米国シスコシステムズ発行ドキュメントの参考和訳です。
米国サイト掲載ドキュメントとの差異が生じる場合があるため、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。
また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。**

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコシステムズおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

IN NO EVENT SHALL CISCO OR ITS SUPPLIERS BE LIABLE FOR ANY INDIRECT, SPECIAL, CONSEQUENTIAL, OR INCIDENTAL DAMAGES, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, LOST PROFITS OR LOSS OR DAMAGE TO DATA ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THIS MANUAL, EVEN IF CISCO OR ITS SUPPLIERS HAVE BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES. CCDE, CCENT, Cisco Eos, Cisco Lumin, Cisco Nexus, Cisco StadiumVision, Cisco TelePresence, the Cisco logo, DCE, and Welcome to the Human Network are trademarks; Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn and Cisco Store are service marks; and Access Registrar, Aironet, AsyncOS, Bringing the Meeting To You, Catalyst, CCDA, CCDP, CCIE, CCIP, CCNA, CCNP, CCSP, CCVP, Cisco, the Cisco Certified Internetwork Expert logo, Cisco IOS, Cisco Press, Cisco Systems, Cisco Systems Capital, the Cisco Systems logo, Cisco Unity, Collaboration Without Limitation, EtherFast, EtherSwitch, Event Center, Fast Step, Follow Me Browsing, FormShare, GigaDrive, HomeLink, Internet Quotient, IOS, iPhone, iQ Expertise, the iQ logo, iQ Net Readiness Scorecard, iQuick Study, IronPort, the IronPort logo, LightStream, Linksys, MediaTone, MeetingPlace, MeetingPlace Chime Sound, MGX, Networkers, Networking Academy, Network Registrar, PCNow, PIX, PowerPanels, ProConnect, ScriptShare, SenderBase, SMARTnet, Spectrum Expert, StackWise, The Fastest Way to Increase Your Internet Quotient, TransPath, WebEx, and the WebEx logo are registered trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the United States and certain other countries.

All other trademarks mentioned in this document or Website are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply partnership relationship between Cisco and any other company. (0807R)

Cisco Network Assistant スタートアップガイド
Copyright © 2004-2008 Cisco Systems, Inc.
All rights reserved.

Copyright © 2008, シスコシステムズ合同会社 .
All rights reserved.



CONTENTS

はじめに	v
対象読者	v
目的	v
マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、およびセキュリティ ガイドライン	v
シスコのテクニカル サポート	vi
Service Request ツールの使用	vi
その他の情報の入手方法	vii

CHAPTER 1

Network Assistant の概要 1-1

CHAPTER 2

Network Assistant の機能 2-1

Front Panel View	2-3
Topology View	2-4
メニュー バー、ツールバー、および機能バー	2-5
メニュー バー	2-5
ツールバー	2-5
機能バー	2-6
Network Assistant のモード	2-8
ウィザード	2-9
Smartports	2-9
特権レベル	2-9
Network Assistant のアップデート	2-10
オンライン ヘルプ	2-10

CHAPTER 3

Cisco Network Assistant のインストール 3-1

Network Assistant のインストール	3-1
Network Assistant の起動	3-2
Network Assistant への接続	3-2
イベント通知	3-3

CHAPTER 4

コミュニティの計画と作成 4-1

コミュニティの計画	4-1
候補とメンバの特性	4-1

コミュニティのデバイスに関する制限	4-2
候補とメンバの自動検出	4-2
コミュニティ名	4-2
ホスト名	4-3
パスワード	4-3
通信プロトコル	4-3
コミュニティの情報	4-3
コミュニティの作成	4-4
デバイスの検出と追加	4-4
手動によるメンバの追加	4-4
クラスタからコミュニティへの変換	4-4
コミュニティの確認	4-5

APPENDIX A

Network Assistant で管理するための Catalyst 4500 シリーズ スイッチの設定
A-1

Network Assistant 関連の機能とデフォルト値	A-2
スイッチの Network Assistant 用設定	A-2
Network Assistant から Catalyst 4500 にアクセスするための最小要件	A-2
コミュニティの管理に必要な追加設定	A-3
クラスタの管理に必要な追加設定	A-4

INDEX

索引



はじめに

対象読者

このマニュアルは、システム管理者、ネットワーク マネージャ、および GUI を通してスタンドアロンのネットワーク デバイスやデバイス グループを管理するその他のユーザを対象としています。ここでは、Cisco Network Assistant (Network Assistant) をソリューションとして紹介します。

目的

このマニュアルの目的は、Network Assistant の使用を開始するための情報をユーザに提供することです。次の章で構成されています。

- 概要：Network Assistant の説明と特徴。
- Network Assistant の機能：Network Assistant によるデバイス管理およびネットワーク管理方法。
- Network Assistant のインストール：Network Assistant のワークステーションへのインストール方法、起動方法、およびネットワーク デバイスへの接続方法。
- コミュニティの計画と作成：Network Assistant を使用したコミュニティの計画と作成の概念および手順。クラスタの概念は、下位互換性のためにサポートされています。

マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、およびセキュリティ ガイドライン

マニュアルの入手方法、Service Request ツールの使用方法、および追加情報の収集方法については、次の URL で、毎月更新される『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。『*What's New in Cisco Product Documentation*』には、シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示されています。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

Really Simple Syndication (RSS) フィードとして『*What's New in Cisco Product Documentation*』に登録し、リーダ アプリケーションを使用して、コンテンツがデスクトップに直接配信されるように設定します。RSS フィードは無料サービスです。シスコは現在、RSS バージョン 2.0 をサポートしています。

シスコのテクニカル サポート

次の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。

<http://www.cisco.com/en/US/support/index.html>

以下を含むさまざまな作業にこの Web サイトが役立ちます。

- テクニカル サポートを受ける
- ソフトウェアをダウンロードする
- セキュリティの脆弱性を報告する、またはシスコ製品のセキュリティ問題に対する支援を受ける
- ツールおよびリソースへアクセスする
 - Product Alert の受信登録
 - Field Notice の受信登録
 - Bug Toolkit を使用した既知の問題の検索
- Networking Professionals (NetPro) コミュニティで、技術関連のディスカッションに参加する
- トレーニング リソースへアクセスする
- TAC Case Collection ツールを使用して、ハードウェアや設定、パフォーマンスに関する一般的な問題をインタラクティブに特定および解決する

Japan テクニカル サポート Web サイトでは、Technical Support Web サイト (<http://www.cisco.com/techsupport>) の、利用頻度の高い ドキュメントを日本語で提供しています。Japan テクニカル サポート Web サイトには、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/jp/go/tac>

Service Request ツールの使用

Service Request ツールには、次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/techsupport/servicerequest>

日本語版の Service Request ツールは次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/jp/go/tac/sr/>

シスコの世界各国の連絡先一覧は、次の URL で参照できます。

<http://www.cisco.com/warp/public/687/Directory/DirTAC.shtml>

その他の情報の入手方法

シスコの製品、サービス、テクノロジー、ネットワークング ソリューションに関する情報について、さまざまな資料をオンラインで入手できます。

- シスコの E メール ニュースレターなどの配信申し込みについては、Cisco Subscription Center にアクセスしてください。
<http://www.cisco.com/offer/subscribe>
- 日本語の月刊 Email ニュースレター「Cisco Customer Bridge」については、下記にアクセスください。
http://www.cisco.com/web/JP/news/cisco_news_letter/ccb/
- シスコ製品に関する変更やアップデートの情報を受信するには、Product Alert Tool にアクセスし、プロファイルを作成して情報の配信を希望する製品を選択してください。Product Alert Tool には、次の URL からアクセスできます。
<http://tools.cisco.com/Support/PAT/do/ViewMyProfiles.do?local=en>
- 『Cisco Product Quick Reference Guide』はリファレンス ツールで、パートナーを通じて販売されている多くのシスコ製品に関する製品概要、主な機能、製品番号、および簡単な技術仕様が記載されています。『Cisco Product Quick Reference Guide』を発注するには、次の URL にアクセスしてください。
<http://www.cisco.com/go/guide>
- ネットワークの運用面の信頼性を向上させることのできる最新の専門的サービス、高度なサービス、リモート サービスに関する情報については、Cisco Services Web サイトを参照してください。Cisco Services Web サイトには、次の URL からアクセスできます。
<http://www.cisco.com/go/services>
- Cisco Marketplace では、さまざまなシスコの書籍、参考資料、マニュアル、ロゴ入り商品を提供しています。Cisco Marketplace には、次の URL からアクセスできます。
<http://www.cisco.com/go/marketplace/>
- DVD に収録されたシスコの技術マニュアル (Cisco Product Documentation DVD) は、Product Documentation Store で発注できます。Product Documentation Store には、次の URL からアクセスできます。
<http://www.cisco.com/go/marketplace/docstore>
- 日本語マニュアルの DVD は、マニュアルセンターから発注できます。マニュアルセンターには下記よりアクセスください。
http://www.cisco.com/japanese/warp/public/3/jp/service/manual_j/manual_center/index.shtml
- Cisco Press では、ネットワーク、トレーニング、認定関連の出版物を発行しています。Cisco Press には、次の URL からアクセスできます。
<http://www.ciscopress.com>
- 日本語のシスコプレスの情報は以下にアクセスください。
<http://www.seshop.com/se/ciscopress/default.asp>
- 『Internet Protocol Journal』は、インターネットおよびイントラネットの設計、開発、運用を担当するエンジニア向けに、シスコが発行する季刊誌です。『Internet Protocol Journal』には、次の URL からアクセスできます。
<http://www.cisco.com/ipj>
- 『What's New in Cisco Product Documentation』は、シスコ製品の最新マニュアル リリースに関する情報を提供するオンライン資料です。毎月更新されるこの資料は、製品カテゴリ別にまとめられているため、目的の製品マニュアルを見つけることができます。
<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>
- シスコの Web サイトの各国語版へは、次の URL からアクセスしてください。
http://www.cisco.com/public/countries_languages.shtml



Network Assistant の概要

Network Assistant は、スタンドアロンのデバイスやデバイス グループ (コミュニティおよびクラスタ) をイントラネット上の任意の場所から管理できるアプリケーションです。Command Line Interface (CLI; コマンドライン インターフェイス) を使用することなく、さまざまな設定タスクを実行できます。また、VLAN、Quality of Service (QoS)、インベントリと統計情報のレポート、リンクとデバイスのモニタリング、ソフトウェアのアップグレード、およびその他の多くのネットワーク機能に関する操作を複数のデバイスやポートに対して同時に適用できます。

Network Assistant の Graphical User Interface (GUI; グラフィカル ユーザ インターフェイス) には、次のビューがあります。

- Topology View : コミュニティやクラスタに存在するデバイス、またはコミュニティやクラスタに追加するのに適格なデバイス、デバイス間のリンク情報、および接続されているその他のクラスタを表示します。
- Front Panel View : デバイスのステータスをリアルタイムにモニタし、さまざまな設定タスクを実行できます。このビューでのデバイスおよびポート LED は、実際のデバイスやポート LED と外観が似ています。

コミュニティとは、最大 40 の接続されたネットワーク デバイスを含むデバイス グループです。Network Assistant では、Cisco Discovery Protocol (CDP; シスコ検出プロトコル) による自動検出機能を使用して、適切なネットワーク デバイスを検出し、コミュニティに追加できます。コミュニティに追加されたネットワーク デバイスは、「メンバ デバイス」になります。Network Assistant では、各メンバを個別の基準で管理、設定、モニタすることができます。各メンバには IP アドレスが割り当てられている必要があります。

ルータ、スイッチ、アクセス ポイントなど、IP アドレスを持つ Cisco ネットワーク デバイスの大部分は、コミュニティに追加できます。ネットワーク デバイスの具体的なリストについては、リリース ノートを参照してください。コミュニティに関する制限については、[P.4-2 の「コミュニティのデバイスに関する制限」](#)を参照してください。

コミュニティを作成すると、Cisco のクラスタ対応デバイスだけでなくクラスタ非対応デバイスを、同じ論理グループで管理できます。この場合、デバイスの物理的位置およびデバイスにインストールされているソフトウェアからは影響を受けません。Network Assistant を使用して、複数のコミュニティを作成、変更、削除、および管理することができます。

クラスタとは、最大 16 の接続されたネットワーク デバイスを含むデバイス グループです。ただし、これらのデバイスはクラスタ対応の Catalyst デバイスである必要があります。各デバイスが属するのは 1 つのクラスタのみで、他のクラスタには参加しません。「コマンド デバイス」になるデバイスには、IP アドレスを割り当てます。コマンド デバイスの IP アドレスは、当該コマンド デバイスおよびその「メンバ デバイス」の設定、管理、モニタのために Network Assistant で使用する単一アクセス ポイントになります。

コミュニティには、クラスタと比較して、次のような利点があります。

- コミュニティはルータ、アクセス ポイント、およびスイッチを管理できます。クラスタが管理できるのはスイッチだけです。
- コミュニティに含めることのできるデバイスの最大数は 40 ですが、クラスタでの最大数は 16 です。
- Network Assistant では、コミュニティ内のすべてのメンバと安全に通信できます。クラスタでは、Network Assistant はコマンド デバイスを介してメンバ デバイスと通信できますが、通信のセキュリティが確保されるのは Network Assistant とコマンド デバイスの間のみです。コマンド デバイスからメンバ デバイスへの通信のセキュリティは確保されません。
- あるコミュニティ メンバに障害が発生しても、Network Assistant は他のメンバを引き続き管理できます。一方、クラスタ コマンド デバイスに障害が発生した場合、Network Assistant は、クラスタ スタンバイ デバイスが設定されていない限り、クラスタの他のメンバを管理できません。
- メンバの位置、およびメンバの相互接続の方法について、コミュニティにはクラスタほど制約事項がありません。クラスタ メンバに関する制約事項の詳細については、オンライン ヘルプを参照してください。
- 候補デバイスで CDP が有効になっていない場合でも、コミュニティを作成し、デバイスを手動で追加することができます。クラスタは、すべての候補デバイスで CDP が有効になっていない限り、作成できません。

Network Assistant は、デバイス グループについて Front Panel View および Topology View の機能を提供します。詳細については、[第2章「Network Assistant の機能」](#)を参照してください。

コミュニティの設定については、[第4章「コミュニティの計画と作成」](#)を参照してください。

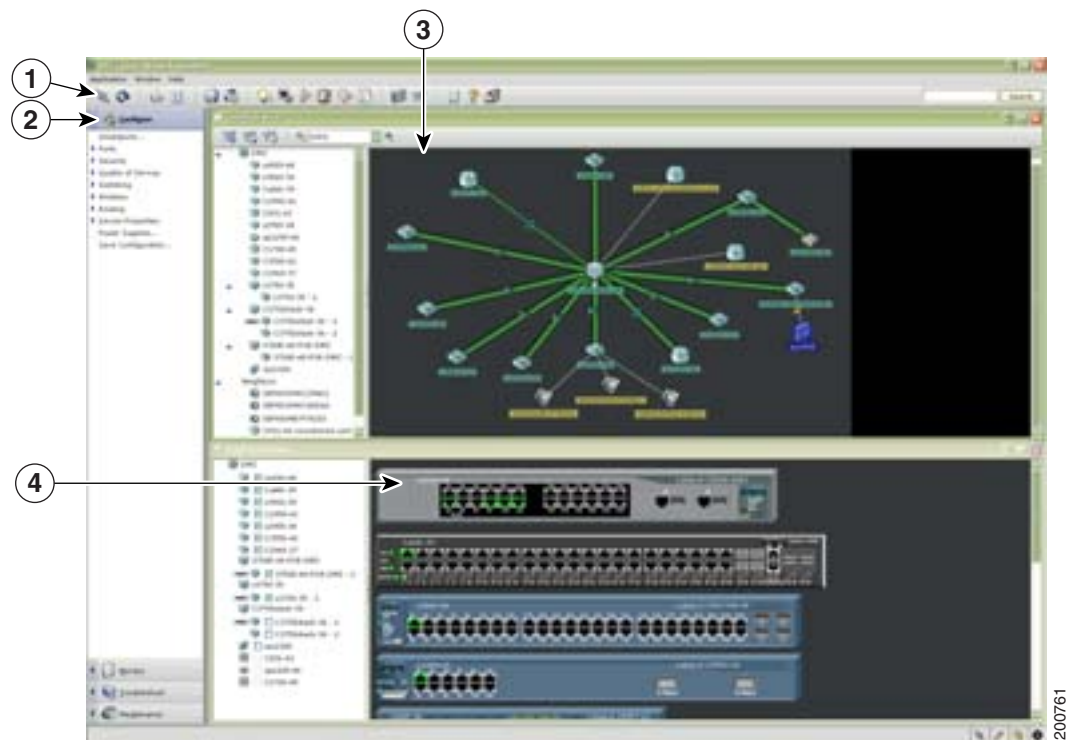
デバイス クラスタの設定については、『[Getting Started with Cisco Network Assistant, version 1.0](#)』の第4章「[Planning and Creating Clusters](#)」を参照してください。



Network Assistant の機能

Network Assistant を使用すると、GUI、ネットワーク デバイス設定用の複数のモード、2 つのアクセス レベル、包括的なオンライン ヘルプにより、コミュニティまたはクラスタの管理が容易になります。図 2-1 は、GUI の主な機能を示しています。

図 2-1 Network Assistant の GUI



1	ツールバー	3	Topology View
2	機能バー	4	Front Panel View

次の各項では、Network Assistant の機能について説明します。

- [Front Panel View \(P.2-3 \)](#)
- [Topology View \(P.2-4 \)](#)
- [メニュー バー、ツールバー、および機能バー \(P.2-5 \)](#)
- [Network Assistant のモード \(P.2-8 \)](#)
- [ウィザード \(P.2-9 \)](#)
- [Smartports \(P.2-9 \)](#)
- [特権レベル \(P.2-9 \)](#)
- [Network Assistant のアップデート \(P.2-10 \)](#)
- [オンライン ヘルプ \(P.2-10 \)](#)

Front Panel View

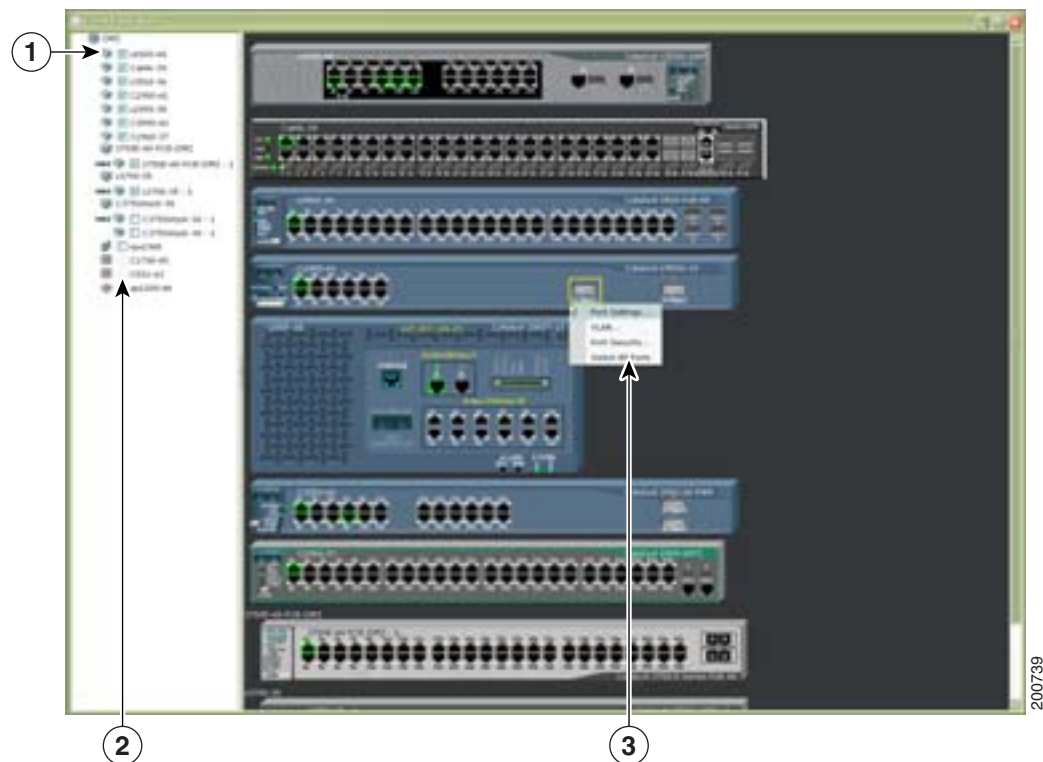
Network Assistant がコミュニティまたはクラスタに接続している場合、ツールバーで Front Panel をクリックするか、機能バーで **Monitor > View > Front Panel** を選択すると、デバイスの Front Panel View が表示されます。デバイスがいずれかのコミュニティに属している場合、そのコミュニティの Front Panel View が前回表示されたときに選択されたデバイスがすべて表示されます。デバイスがクラスタの場合は、ビューが前回表示されたときに選択されたクラスタ メンバが表示されます。

Front Panel View では次の操作を実行できます。

- 表示されているデバイスをドラッグして再配置する。
- デバイスを選択して設定する。
- ポートを右クリックして設定する。
- 同じデバイスまたは異なるデバイスから複数のポートを選択し、それらのポートを同時に設定する。

図 2-2 は、Catalyst 4948、3750、3560、3550、2960、2955、および 2950 のスイッチ、および Catalyst Express 500 スイッチがメンバであるコミュニティを示しています。

図 2-2 Front Panel View とポートのポップアップ ウィンドウ



1	メンバデバイス	3	設定ポップアップ ウィンドウ
2	表示するデバイスを選択するためのチェックボックス		

Topology View

Network Assistant がコミュニティまたはクラスタに接続している場合、デフォルトでは Topology View が表示されます。このデフォルトを変更すると、ツールバーで Topology view をクリックするか、**Monitor > Views > Topology** を選択することにより、Topology View を表示できます。

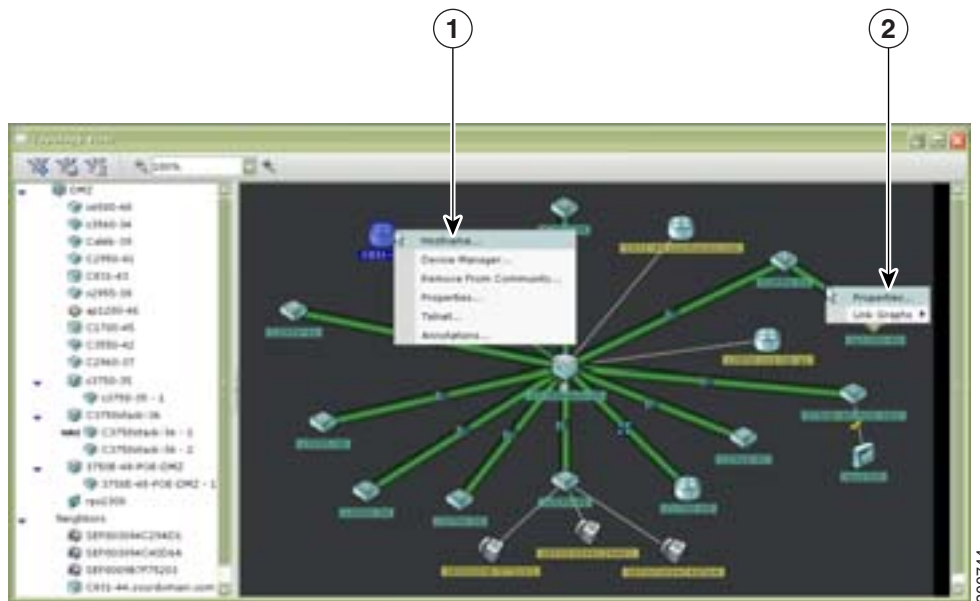


(注) **Application > Preferences > Show Front Panel View when connected to network** を選択することにより、デフォルトで Front Panel View が表示されるように Network Assistant のプリファレンスを変更できます。Network Assistant で Topology View をデフォルトで表示しないようにするには、**Show Topology View when connected to network** を選択解除します。

Topology View には、コミュニティまたはクラスタにおける各デバイスの接続の状態が表示されます。コミュニティを管理する場合、VLAN リンクを強調表示することにより、それらのリンクを表示できます。コミュニティまたはクラスタの隣接デバイス メンバを作成したり、メンバを削除したりできます。

図 2-3 に示す Topology View には、コミュニティのメンバおよび Network Assistant によって検出された隣接デバイスが表示されています。デバイスまたはリンクのアイコンを右クリックすると、ポップアップ ウィンドウが表示されます。

図 2-3 Topology View とデバイスのポップアップ ウィンドウ



1 デバイスのポップアップ ウィンドウ

2 リンクのポップアップ ウィンドウ



(注) コミュニティを管理している場合、Topology View には当該コミュニティ内のデバイスがすべて表示されます。別のコミュニティを表示するには、そのコミュニティに接続する必要があります。

クラスタを管理している場合、Topology View に表示されるのは、アクセス先の特定のコマンド デバイスまたはメンバ デバイスのクラスタおよびネットワーク ネイバーフッドのみです。別のクラスタを表示するには、そのクラスタのコマンド デバイスまたはメンバ デバイスにアクセスする必要があります。

メニューバー、ツールバー、および機能バー

メニューバー、ツールバー、および機能バーには、次のオプションがあります。

- メニューバー：コミュニティおよび Network Assistant の設定に使用します。
- ツールバー：頻繁に使用する設定オプション、および凡例やオンライン ヘルプなどの情報ウィンドウのアイコンとボタンが配置されています。
- 機能バー：デバイス、ポート、および VLAN の設定、モニタリングの実行、およびレポートへのアクセスに使用します。

メニューバー










メニューバーには次のオプションがあります。

- Application：印刷オプションの選択、対話モードの選択、ユーザプリファレンスの設定、Network Assistant アップデートの検索とインストール、機能バーの表示と非表示の切り替え、コミュニティの作成と変更、およびシステムメッセージ通知の要求を行います。
- Window：Network Assistant ウィンドウに移動してウィンドウを開きます。
- Help：オンラインヘルプを開きます。

ツールバー









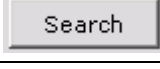
表 2-1 は、ツールバーのオプションを左側から順に示した一覧です。

表 2-1 ツールバーのアイコンとボタン

ツールバーのオプション	アイコン	機能
Connect		Network Assistant をコミュニティ、クラスタ、またはスタンドアロン デバイスに接続します。
Refresh		ビューを最新のステータスに更新します。
Print		Network Assistant ウィンドウまたはヘルプのトピックを印刷します。
Preferences		Network Assistant の表示プロパティの設定、Network Assistant の接続時に表示するビューの選択、および Network Assistant によるアップデートの検索頻度の選択を行います。
Save Configuration ¹		デバイスの設定を PC に保存します。
Software Upgrade ¹		デバイスのソフトウェアをアップグレードします。
Smartports ¹		デバイスの Smartports 設定を表示または設定します。
Port Settings ²		デバイスのポートパラメータを表示または設定します。
VLANs ¹		VLAN メンバシップの表示、VLAN へのポートの割り当て、および管理モードの変更を行います。

■ メニューバー、ツールバー、および機能バー

表 2-1 ツールバーのアイコンとボタン (続き)

ツールバーのオプション	アイコン	機能
Inventory		デバイス タイプ、ソフトウェア バージョン、IP アドレス、およびデバイスに関するその他の情報を表示します。
Health		管理対象デバイスのヘルスを示す測定値をモニタします。
Event Notification		ネットワークとデバイスのイベントに関するメッセージを表示します。
Front Panel		Front Panel View を表示します。
Topology		Topology View を表示します。
Legend		アイコン、ラベル、リンクの凡例を表示します。
Help for Active Window		アクティブな開いているウィンドウに関するヘルプ トピックを表示します。アクティブなウィンドウで Help をクリックするか、F1 キーを押すことによっても、ヘルプを表示できます。
Feedback		Network Assistant の使用に関するフィードバックを残すための Web ページを表示します。
Search		ツールバーの右にあるフィールドに用語を入力して Search ボタンをクリックし、オンライン ヘルプを検索します。

1. 読み取り専用モードでは使用できません。読み取り専用アクセス モードおよび読み取り書き込みアクセス モードの詳細については、[P.2-9 の「特権レベル」](#)を参照してください。
2. このメニュー オプションの一部の機能は、読み取り専用モードで使用できません。

機能バー

機能バーには、コミュニティまたはクラスタにあるデバイスで使用可能なネットワーク機能が表示されます。デフォルトでは、機能バーは標準モードです。このモードでは、機能バーは常に表示されており、ユーザがその幅を調整できます。自動非表示モードになっている場合、機能バーは、ユーザが Network Assistant の作業スペースの左端にカーソルを移動したときにのみ表示されます。

- 機能バーを標準モードで表示するには、**Application > Feature Bar** をクリックし、**Standard Mode** を選択します。
- 機能バーを非表示にするには、**Application > Feature Bar** をクリックし、**Autohide Mode** を選択します。

図 2-4 は、機能バーを示しています。

図 2-4 機能バー



各機能はメニューの下にグループ化されています。メニュー項目をクリックすると、その機能の設定ウィンドウが表示されます。

機能が使用可能かどうかは、アクセスモードに依存します。一部の機能は読み取り専用モードで使用できません。アクセスモードが Network Assistant に与える影響の詳細については、P.2-9 の「[特権レベル](#)」を参照してください。

Network Assistant のモード

Network Assistant は次のモードで使用できます。

- **エキスパートモード**：1つのウィンドウで機能を設定します。Network Assistant はデフォルトでエキスパートモードです。エキスパートモードで機能を実行するには、**Application** メニューの **Expert** を選択します。エキスパートモードでオンラインヘルプにアクセスするには、ウィンドウで **Help** をクリックします。
- **ガイドモード**：機能を1ステップずつ設定します。表示されているウィンドウに対応するヘルプ情報が表示されます。機能バーに道しるべのアイコン付きで表示されている機能（図 2-5 を参照）は、その機能をガイドモードで実行できることを示しています。機能を選択すると、一連のステップが表示され、ガイドに従ってその機能を設定できます。

ガイドモードを実行するには、**Application** メニューの **Guide** を選択します。ガイドモードの機能を **Expert** モードで実行するには、その機能を選択する **前**に **Expert** を選択する必要があります。



(注) ガイドモードは、スイッチのアクセスレベルが読み取り専用の場合には使用できません。読み取り専用アクセスモードの詳細については、P.2-9 の「特権レベル」を参照してください。

図 2-5 ガイドモードの道しるべ



1	ガイドモードのアイコン	2	エキスパートモードのみサポートしているメニュー項目
---	-------------	---	---------------------------

ウィザード

ウィザードはすべて、機能バーに表示される名前に *Wizard* という語を含んでいます。ウィザードでは、ガイドモードと同様に、特定の設定タスクを1ステップずつ順に実行できます。ただしガイドモードと異なり、ウィザードでは、ユーザはすべての機能オプションについて情報を入力するよう要求されません。要求されるのは最小限の情報だけです。残りのオプションについてはデフォルトの設定値が使用され、デフォルトの設定が実行されます。

ウィザードは読み取り専用アクセス レベルでは使用できません。読み取り専用アクセス モードの詳細については、「[特権レベル](#)」を参照してください。

Smartports

Network Assistant では、Smartports を使用して設定しなかったデバイス接続が検出され、その情報が Event Notification ウィンドウで通知されます。接続は、手動または Network Assistant の推奨に基づいて設定することができます。Smartports ウィンドウを表示して、適用するロールを選択するか、Smartports を使用して適用するロールの推奨を受けます。Smartports の詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

特権レベル

Network Assistant には、設定オプションに対するアクセス タイプとして、読み取り書き込みと読み取り専用の2つがあります。ユーザのアクセス タイプは、割り当てられている特権レベル (1 ~ 15) によって決まります。各特権レベルは次のアクセス タイプと対応しています。

- レベル 15：読み取り書き込みアクセス。
- レベル 1 ~ 14：読み取り専用アクセス。Network Assistant ウィンドウ、機能バー、ツールバー、およびポップアップウィンドウのオプションのうち、デバイス、コミュニティ、またはクラスタの設定を変更するオプションはすべて、読み取り専用アクセスで有効になっています。つまり、ユーザは、これらの項目で起動されたウィンドウに表示される設定を変更することはできません。

Network Assistant ではデフォルトで、特権レベル 15 のユーザ ログオンが試みられます。ただし、そのためには通常、適切なユーザ名とパスワードによってユーザが認証に合格する必要があります。一般に、それより下位のレベルでは、この要件は課せられません。



(注)

TACACS+ サーバまたは RADIUS サーバ経由で Network Assistant にアクセスするには、特権レベル 15 が必要です。

Network Assistant のアップデート

Network Assistant では、新しいパッケージが入手可能かどうか Cisco.com を検索できます。検索を行うには、次のいずれかの操作を実行します。

- **Application > Preferences** を選択し、自動検索を毎週または毎月行うよう Preferences ウィンドウで設定する。
- **Application > Application Updates** を選択し、アップデートを即時に検索するよう要求する。

アップデートが検出された場合、Network Assistant からインストールできます。

オンライン ヘルプ

Network Assistant には、設定やモニタリングのタスクについて説明する包括的なオンライン ヘルプ が用意されています。

ヘルプ トピックの情報はデバイスによって異なる場合があります。この場合、Help ウィンドウの右側のペインにトピックのすべてのバージョンが表示され、対応するデバイスのホスト名がそれぞれにラベル付けされています。

オンライン ヘルプには次の機能があります。

- ネットワーキング機能の基本情報を提供する概念ヘルプ
- タスクの実行手順を説明するウィンドウ ヘルプ
- オンライン ヘルプのトピックの索引
- オンライン ヘルプのすべてのトピックを検索するためのタブ
- オンライン ヘルプで使用されている用語の用語集



Cisco Network Assistant のインストール

この章では、Cisco Network Assistant のインストール方法と、Cisco Network Assistant をデバイスまたは既存のコミュニティに接続する方法について説明します。

Network Assistant のインストールに必要な要件については、http://www.cisco.com/en/US/products/ps5931/prod_release_notes_list.html にあるリリース ノートを参照してください。

Network Assistant のインストール

Network Assistant を PC にインストールするには、次の手順に従います。

1. Web サイト <http://www.cisco.com/go/NetworkAssistant> にアクセスします。
このサイトにアクセスするには、Cisco.com の登録ユーザとなる必要があります。その他のアクセス権は必要ありません。
2. Network Assistant のインストーラ ファイル、cna-windows-k9-installer-5-0-en.exe を見つけます。
3. Network Assistant のインストーラをダウンロードし、実行します（Web サイトから直接実行するという方法がブラウザに提示された場合は、その方法を選択できます）。
インストーラを実行するときは、表示されるインストラクションに従います。最後の画面で **Finish** をクリックし、Network Assistant のインストールを終了します。



(注) Network Assistant は無料です。ダウンロード、インストール、使用のいずれにも料金はかかりません。

Network Assistant の起動

Network Assistant をインストールすると、デスクトップに Network Assistant のアイコンが、**Start** メニューの下に Network Assistant のショートカットが、**Start > Programs** の下に Network Assistant のエントリがそれぞれ作成されます。このいずれかをクリックすると、Network Assistant の GUI の一部と Connect ウィンドウが表示されます。

非接続モードでは、Network Assistant はデバイスまたはコミュニティに接続されず、スタンドアロン デバイス、コミュニティ、またはクラスタのコマンド デバイスを管理できません。メニュー バーおよびツールバーでサポートされるのは、Network Assistant 自体をカスタマイズするためのタスクのみです。通常はデバイスに関する機能を表示する機能バーにも、何も表示されません。

Network Assistant への接続

Network Assistant の Connect ウィンドウを使用してコミュニティまたはクラスタに接続します。図 3-1 は、Connect ウィンドウを示しています。

Network Assistant をデバイスに接続するには、次の手順に従います。

ステップ 1 Connect ウィンドウで、デバイスの IP アドレスを入力します。

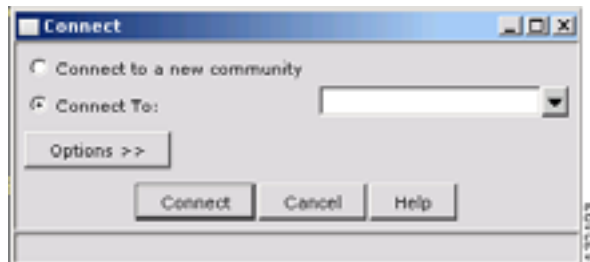
- 既存のコミュニティに接続する場合は、プルダウン メニューから名前を選択します。既存のクラスタに接続する場合は、IP アドレスを選択します。
コミュニティを選択するときは、アクセス モードおよびアクセス レベルを設定できます。コミュニティに接続する前にアクセス モードを設定しない場合、Network Assistant の機能により、読み取り書き込みアクセス モードがコミュニティ内のすべてのデバイスに適用されます。
- HTTP とアクセス モードのオプションを設定するには、**Options** ボタンをクリックします。
 - HTTP protocol フィールドで、HTTP または HTTPS を選択します。クラスタ デバイスまたはスタンドアロン デバイスと通信するには、HTTP ではなく HTTPS (セキュア HTTP) を使用します。
 - HTTP ポートを選択します。クラスタ コマンド デバイスまたはスタンドアロン デバイスで 80 以外の HTTP ポートを使用します。
 - アクセス モードを選択します。デフォルトは読み取り専用アクセス モードです。
 - **OK** をクリックして Connect ウィンドウに戻ります。
- このウィンドウを使用して新しいコミュニティに接続することもできます。**Connect to a new community** オプションを使用してコミュニティを作成する方法については、P.4-4 の「コミュニティの作成」を参照してください。



(注) コミュニティにおける HTTPS オプションおよび HTTP オプションの使用方法については、P.4-3 の「通信プロトコル」を参照してください。

Catalyst 4500 シリーズ スイッチは、デフォルトでは HTTP および HTTPS が無効の状態出荷されているので、必要に応じて有効にします。HTTPS v3.0 は、Cisco IOS 12.2(25)SG 暗号化バージョンおよびそれ以降でサポートされています。

図 3-1 Connect ウィンドウ



ステップ2 Connect をクリックします。

Connect をクリックすると、コミュニティに直接接続されるか、またはユーザ名とパスワードの入力を要求された後に接続されます。クラスタに接続する場合は、クラスタをコミュニティに変換するかどうかの確認を求められます。クラスタをコミュニティに変換する方法の詳細については、[P.4-4 の「クラスタからコミュニティへの変換」](#)を参照してください。

接続が確立されると、Network Assistant のウィンドウは「接続」モードになります。ツールバーにはデバイスの機能を表すアイコンが追加されます。同様に機能バーにも、Network Assistant の管理対象デバイスの機能を示すメニューが表示されます。

イベント通知

Network Assistant で検出されたイベントは、イベント アイコンがステータスバーの上および Topology View のデバイスの下に表示されることにより、ユーザに通知されます。イベント アイコンをクリックすると、そのイベントについて説明するウィンドウが開き、可能な場合は、必要な操作を実行できるウィンドウに接続されます。



コミュニティの計画と作成

この章では、Network Assistant を使用したコミュニティの計画と作成の概念および手順を説明します。この章には次の項があります。

- [コミュニティの計画 \(P.4-1\)](#)
- [コミュニティの作成 \(P.4-4\)](#)

Network Assistant を使用したコミュニティの設定方法については、オンライン ヘルプを参照してください。

コミュニティの計画

この項では、コミュニティを作成する前に理解しておくべきガイドライン、要件、および注意事項を説明します。

候補とメンバの特性

「候補」とは、IP アドレスを持っているネットワーク デバイスのうち、コミュニティにまだ追加されていないものを指します。メンバは、すでにコミュニティに追加されているネットワーク デバイスです。

コミュニティに参加するには、候補は次の要件を満たしている必要があります。

- IP アドレスを持っている。
- HTTP または HTTPS がデフォルト ポートで有効になっている。



(注) クラスタはコミュニティに追加できません。クラスタ メンバは個別に追加できます。

クラスタ コマンド デバイスをコミュニティに追加しても、そのクラスタの他のメンバは自動的に追加されません。クラスタ メンバを管理するには、それらをコミュニティに個別に追加する必要があります。

Catalyst 3750 スイッチのスタック マスターがコミュニティに追加されると、個々のスタック メンバは自動的にコミュニティに追加されます。これは、スタック メンバが Modify Community ウィンドウまたは Discover ウィンドウに表示されない場合でも同様です。ただし、コミュニティに接続すると、これらのスタック メンバは Front Panel View および Topology View に表示されます。

コミュニティのデバイスに関する制限

コミュニティ内の Catalyst スイッチ、Cisco アクセス ルータ、および PIX ファイアウォールの合計数は 40 以下である必要があります。デバイス タイプごとの数に制限はありません。Cisco Aironet アクセス ポイントの数には制限がありません。



(注) Catalyst 3750 スイッチ スタックの複数のデバイスが単一のスイッチとして機能している場合でも、個別のスイッチとしてカウントされ、合計数の制限とデバイス タイプ個別の制限を受けます。

40 デバイスの制限を超えた場合、コミュニティを管理できません。デバイスを削除して合計数を 40 以下にする必要があります。

Network Assistant で管理できるコミュニティの数には制限がありません。

候補とメンバの自動検出

開始デバイスの IP アドレス、HTTPS プロトコルと HTTP プロトコルのポート番号など、Network Assistant では CDP を使用して、コミュニティ候補（開始デバイスから CDP ホップ数が 4 までの範囲にあるもの）のリストを作成します。ネットワークおよび VLAN に有効な IP アドレスがある場合、多数のネットワークや VLAN の中から候補デバイスとメンバ デバイスを検出できます。検出対象となるためにネットワーク デバイスが満たす必要のある要件のリストについては、[P.4-1 の「候補とメンバの特性」](#)を参照してください。



(注) 候補、メンバ、または Network Assistant による検出の対象となるすべてのネットワーク デバイスにおいて、CDP を無効にしないでください。

検出されたデバイスのリストを必要に応じて編集し、デバイスをコミュニティに追加します。Network Assistant がネットワーク デバイスを検出しない場合は、ユーザが手動でデバイスを追加できます。

検出されたデバイスをコミュニティに追加する方法、またはデバイスをコミュニティに手動で追加する方法については、[P.4-4 の「手動によるメンバの追加」](#)を参照してください。

コミュニティ名

コミュニティを作成したら、名前を割り当てる必要があります。名前には最大 64 文字の英数字を使用します。大文字と小文字は区別されません。



(注) ある名前を Connect ウィンドウで選択し、その名前がクラスタとコミュニティで共有されている場合は、コミュニティの方に接続されます。

ホスト名

コミュニティ メンバに対してユーザがホスト名を割り当てる必要はありません。また、Network Assistant によってデフォルトでホスト名が割り当てられることもありません。ただし Cisco IOS では、ホスト名 *Switch* はホスト名のないスイッチに割り当てられます。したがって、混同することのないよう、スイッチにホスト名を割り当てることをお勧めします。

パスワード

コミュニティに接続する際は、そのコミュニティの各メンバにすでに割り当てられている一意のパスワードを入力するよう求められます。Network Assistant では、これらのパスワードを使用して他のデバイスへの接続を試みます。パスワードの入力を求められるのは、前回入力したパスワードがデバイスで使用できない場合のみです。

たとえば、コミュニティに 10 のメンバがある場合を考えます。そのうち 5 メンバが 1 つのパスワードを共有していて、残りの 5 メンバで別の 1 つのパスワードを共有しているとします。この場合、それぞれを 1 回ずつ、合計 2 回パスワードを入力するように求められます。Network Assistant では、パスワードは PC に保存されません。したがって、コミュニティへの接続を試みるたびに、パスワードの入力を求められます。

通信プロトコル

Network Assistant では、コミュニティ メンバとの通信に HTTPS および HTTP を使用します。隣接するデバイスを CDP を使用して検出する場合、およびデバイスを手動で追加する場合、最初は HTTPS による接続を試みます。HTTPS 接続が失敗すると、次は HTTP で再試行します。

HTTPS ポートは 443 に固定されており、HTTP ポートはデフォルトで 80 に設定されています。コミュニティを作成するとき、別の HTTP ポートを指定できます。その後は、HTTP Port ウィンドウを使用して HTTP ポートを変更します。HTTPS と HTTP のポート設定はいずれも、同一コミュニティのメンバすべてで同じである必要があります。

コミュニティの情報

Network Assistant では、IP アドレス、ホスト名、通信プロトコルなど、個々のデバイスの情報がローカル PC にすべて保存されます。コミュニティへの接続時には、ローカルに保存されたデータによってメンバデバイスの再検出が行われます。

別の PC を使用して既存のコミュニティを管理しようとしても、メンバデバイスの情報はいずれも使用できません。そのコミュニティを再度作成し、同じメンバデバイスを追加する必要があります。

コミュニティの作成

コミュニティを作成する方法には、次の3つがあります。

- コミュニティに追加可能な候補を検出する。
- デバイスを手動で追加する。
- Cluster Conversion Wizard を使用してクラスタをコミュニティに変換する。

また、デバイスがコミュニティに適切に含まれていることを確認する必要があります。ここでは、これらのタスクを実行する方法を説明します。

デバイスの検出と追加

候補デバイスのリストを作成し、デバイスをコミュニティに追加するには、次の手順に従います。

1. Network Assistant を起動し、Connect ウィンドウで **Connect to a new community** を選択します。**Connect** をクリックします。
2. Create Community ウィンドウで、コミュニティの名前を入力します。
3. HTTP ポートをデフォルトの 80 以外に設定する場合は **Advanced** ボタンをクリックします。使用する HTTP ポート番号を入力します。**OK** をクリックします。
4. 開始デバイスの IP アドレスを入力し、**Discover Neighbors** をクリックします。
5. Devices Found リストで、削除する候補デバイスを選択します。
 - a. 複数の候補を削除するには、**Ctrl** キーを押しながらデバイスを選択していくか、**Shift** キーを押しながら選択範囲内の最初のデバイスと最後のデバイスを選択します。
 - b. **Remove** をクリックします。
6. リスト内の残りのデバイスをコミュニティに追加するには、**Add All To Community** をクリックします。

手動によるメンバの追加

Network Assistant でデバイスを手動でコミュニティに追加するには、2つの方法を使用できます。

1. Create Community ウィンドウで、追加するデバイスの IP アドレスを入力します。
2. **Add to Community** をクリックします。

デバイスを手動で追加するための2番目の方法では、Topology View を使用します。

1. Topology View が表示されない場合は、機能バーから **View > Topology** を選択します。
2. 候補のアイコンを右クリックし、**Add to Community** を選択します。

候補デバイスのラベルはシアン、メンバのラベルは緑です。

クラスタからコミュニティへの変換

Cluster Conversion Wizard を使用すると、クラスタ用の情報を使用してコミュニティを作成できます。このウィザードでは、IP アドレスを入力すること、およびインターフェイス名とサブネットマスクを持っていないデバイスに対し、それらをプルダウン リストから選択することを求められます。コミュニティの作成と同時に Network Assistant によってクラスタが削除されることはありません。

Cluster Conversion Wizard を起動するには2つの方法があります。クラスター コマンド デバイスに接続すると、ウィザードが起動し、クラスターをコミュニティに変換するかどうかの確認を求められます。または、機能バーから **Configure > Cluster > Cluster Conversion Wizard** を選択して、ウィザードを起動することもできます。

コミュニティの確認

コミュニティを確認するには、次の手順に従います。

1. **Monitor > View > Topology** を選択し、Topology View を表示します。
2. **Monitor > Reports > Inventory** を選択し、コミュニティ内のデバイスのインベントリを表示します。
このサマリーには、デバイスの型番、シリアル番号、ソフトウェアバージョン、IP 情報、位置といった情報が含まれています。
3. **Monitor > View > Front Panel** を選択し、Front Panel View を表示します。



Network Assistant で管理するための Catalyst 4500 シリーズ スイッチの設定

この付録では、Catalyst 4500 シリーズ スイッチを Network Assistant 用に設定する方法を説明します。また、このスイッチに対応する Network Assistant 機能のデフォルト値についても説明します。



(注)

Catalyst 4500 シリーズ スイッチでの Network Assistant の設定方法の詳細については、『*Catalyst 4500 Series Switch Cisco IOS Software Configuration Guide*』の「Configuring the Catalyst 4500 Series Switch with Cisco Network Assistant」の章を参照してください。



(注)

この章で使用されているスイッチ コマンドの構文と使用方法の詳細については、『*Catalyst 4500 Series Switch Cisco IOS Command Reference*』および次の場所にある関連資料を参照してください。
<http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/software/ios123/123cgr/index.htm>

この付録は、次の内容で構成されています。

- [Network Assistant 関連の機能とデフォルト値 \(P.A-2\)](#)
- [スイッチの Network Assistant 用設定 \(P.A-2\)](#)

Network Assistant 関連の機能とデフォルト値

表 A-1 は、Catalyst 4500 シリーズ スイッチの Network Assistant 関連の設定パラメータの一覧です。

表 A-1 Catalyst 4500 シリーズ スイッチでの Network Assistant 関連の設定

機能	デフォルト値	推奨値
認証	無効	省略可能
IP アドレス	コミュニティまたは検出オプションによって異なる ¹	ユーザ選択可能
IP HTTP ポート番号	80	省略可能 ²
IP HTTPS ポート番号	443	省略可能 ³
IP HTTP サーバ	無効	有効 ⁴
クラスタ実行	無効	有効 ⁵

1. コミュニティのデバイス検出およびクラスタ コマンドには、スイッチごとに IP アドレスを設定する必要があります。
2. Network Assistant と Catalyst 4500 シリーズのポート番号は一致している必要があります。
3. デバイスのクラスタの場合にのみこの値を変更できます。Network Assistant と Catalyst 4500 シリーズのポート番号は一致している必要があります。値は、1024 を超える任意の非デフォルト番号に変更できます。
4. Network Assistant がデバイスにアクセスするために必要です。
5. デバイスのクラスタを管理する場合にのみ有効です。

スイッチの Network Assistant 用設定

ここでは、スイッチを Network Assistant 用に設定する方法を説明します。次の項があります。

- [Network Assistant から Catalyst 4500 にアクセスするための最小要件 \(P.A-2\)](#)
- [コミュニティの管理に必要な追加設定 \(P.A-3\)](#)
- [クラスタの管理に必要な追加設定 \(P.A-4\)](#)

Network Assistant から Catalyst 4500 にアクセスするための最小要件

デフォルトの設定を使用する場合は、Catalyst 4500 シリーズ スイッチにアクセスし、`ip http server` (HTTP の場合)または `ip http secure-server`(HTTPS の場合)グローバル設定コマンドを入力します。

	コマンド	目的
ステップ 1	Switch# <code>configure terminal</code>	グローバル設定モードに入ります。
ステップ 2	Switch(config)# <code>ip http server</code> または Switch(config)# <code>ip domain-name domain_name</code>	(HTTP の場合のみ) スイッチ上で HTTP サーバを有効にします。デフォルトでは、HTTP サーバは無効になっています。 HTTPS を設定するためにスイッチのドメイン名を有効にします。
ステップ 3	Switch(config)# <code>ip http secure-server</code>	スイッチ上の HTTPS サーバを有効にします。デフォルトでは、HTTPS サーバは無効になっています。
ステップ 4	Switch(config)# <code>ip http max-connections connection_number</code>	HTTP サーバへの最大同時接続数を設定します。 <code>connection_number</code> には 16 を推奨します。


	コマンド	目的
ステップ 5	Switch(config)# ip http timeout-policy idle <i>idle_time life life_time requests requests</i>	HTTPS ポートを設定します。 idle キーワードは、接続がアイドル状態を維持できる最大時間を指定します。idle 値には 180 秒を推奨します。 life キーワードは、接続が確立されてからオープン状態を維持できる最大時間を指定します。life 値には 180 秒を推奨します。 requests キーワードは、接続での最大要求数を指定します。最大 25 要求を推奨します。
ステップ 6	Switch(config-if)# end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 7	Switch# show running-config	設定を確認します。

コミュニティの管理に必要な追加設定





(注) クラスタ処理を有効にしている場合は、コミュニティを設定する前にクラスタ処理を無効にしてください。

コミュニティを使用する場合は、各スイッチに IP アドレスを定義します。

	コマンド	目的
ステップ 1	Switch# configuration terminal	グローバル設定モードに入ります。
ステップ 2	Switch(config)# interface {vlan vlan_ID {fastethernet gigabitethernet} slot/interface Port-channel number}	インターフェイスを選択します。
ステップ 3	Switch(config-if)# ip address ip_address address_mask	(省略可能) Catalyst 4500 シリーズに IP アドレスを割り当てます。  (注) スイッチがコミュニティの一部またはクラスタ コマンド スイッチの場合、この手順は必須です。スイッチがクラスタ メンバ候補の場合、この手順は省略可能です。
ステップ 4	Switch(config-if)# end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 5	Switch# show running-config	設定を確認します。

クラスタの管理に必要な追加設定

クラスタ処理を使用する場合は、各デバイスで `cluster run` グローバル設定コマンドを入力し、クラスタ コマンドで `ip address` インターフェイス設定コマンドを入力します。

	コマンド	目的
ステップ 1	Switch# <code>configuration terminal</code>	グローバル設定モードに入ります。
ステップ 2	Switch(config)# <code>cluster run</code>	クラスタ処理を有効にします。  (注) クラスタの一部となる可能性のあるすべてのスイッチでクラスタ処理を有効にします。
ステップ 3	Switch(config)# <code>cluster enable</code>	クラスタに名前を付けます。
ステップ 4	Switch(config)# <code>interface {vlan vlan_ID {fastethernet gigabitethernet} slot/interface Port-channel number}</code>	インターフェイスを選択します。
ステップ 5	Switch(config-if)# <code>ip address ip_address address_mask</code>	(省略可能)Catalyst 4500 シリーズ スイッチのクラスタ マスターに IP アドレスを割り当てます。  (注) スイッチがコミュニティの一部またはクラスタ コマンド スイッチの場合、この手順は必須です。スイッチがクラスタ メンバ候補の場合、この手順は省略可能です。
ステップ 6	Switch(config-if)# <code>end</code>	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 7	Switch# <code>show running-config</code>	設定を確認します。



INDEX

C

Catalyst 4500 スイッチ

- クラスタの設定 A-4
- コミュニティの設定 A-3
- 最小要件 A-2
- デフォルト設定 A-2

CDP

- コミュニティ内の自動検出 4-2

Cluster Conversion Wizard 4-4

I

IP アドレス

- コミュニティ候補 4-1

N

Network Assistant

- インストール
手順 3-1
- 概要 1-1
- 起動 3-2
- 接続 3-2

Network Assistant の起動 3-2

S

Smartports Advisor 2-9

T

Topology View 2-4

あ

アクセス

- コミュニティ 4-2

い

- インストール、Network Assistant
手順 3-1

う

ウィザード 2-9

お

オンライン ヘルプ 2-10

き

機能

- Front Panel View 2-3
- Topology View 2-4
- ウィザード 2-9
- オンライン ヘルプ 2-10
- 特権レベル 2-9
- メニュー バー 2-5

く

クラスタ

- Cluster Conversion Wizard 4-4
- コミュニティへの変換 4-4
- サイズの制限 1-1
- 定義 1-1

け

- 検出、コミュニティ
「自動検出」を参照

- こ
- 候補
- コミュニティ内の自動検出 4-4
- コミュニティ
- アクセス 4-2
 - 確認 4-5
 - 管理
 - ローカル PC 4-3
 - 計画における考慮事項
 - 識別情報 4-3
 - パスワード 4-3
 - ホスト名 4-3
 - 構成 4-2
 - 候補
 - 検出 4-4
 - 「コミュニティ」の「メンバ」も参照
 - 追加 4-4
 - 定義 4-1
 - メンバの自動検出 4-2 4-4
 - 要件 4-1
 - コミュニティの情報 4-3
 - コミュニティ名 4-2
 - 作成 4-4
 - 識別情報の保存 4-3
 - 自動検出 4-2 4-4
 - 制限 4-2
 - 追加、メンバの 4-4
 - 通信プロトコル 4-3
 - 定義 1-1 1-2
 - 変換、クラスタをコミュニティに 4-4
 - メンバ
 - 自動検出 4-2 4-4
 - 追加 4-4
 - ホスト名 4-3
 - 要件 4-1
- し
- シスコ検出プロトコル
- 「CDP」を参照
- 自動検出
- 「CDP」も参照
 - 考慮事項
 - CDP を使用できないデバイス 4-4
 - 接続性 4-2
- コミュニティ内の 4-2
- 追加、メンバの 4-4
- 手動によるコミュニティへのメンバの追加 4-4
- せ
- 接続、Network Assistant 3-2
- て
- デバイスの最大数、コミュニティ内の 4-2
- と
- 特権レベル 2-9
- は
- パスワード
- コミュニティ内の 4-3
- へ
- 変換、クラスタをコミュニティに 4-4
- ほ
- ホスト名
- コミュニティ内の 4-3
- め
- メニューバー 2-5
- メンバ
- コミュニティへの追加 4-4
 - 追加 4-4